

第5回新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会（令和元年 11 月 21 日）における「これまでの審議を踏まえた論点とりまとめ（素案）」に関する意見概要
(教育課程部会関係)

【これからの学びを支える ICT や先端技術の効果的な活用について】

- ICT を活用して、目の前の子供たちに適応した最新かつ最適な授業を作ることが求められる中、カリキュラムの中身と ICT 環境の整備はもっと密接に連携していくべきではないか。
- 子供自身が自らの学びを振り返ることができる機会を設け、生涯にわたって、自分の学び方を最適化していくことも、自立して主体的に判断する人間として育てるうえで必要。学習者としての子供の姿が見えるような記載をしてほしい。
- 1 人 1 台パソコンになる環境の中で、学力調査などの子供たちの学習状況を評価するテストがどのように変容していくべきなのか、また、AI を使ったドリル型学習の場合、子供の学習の進み具合が個別多様になるがそれで良いのか、検討すべき。

【義務教育 9 年間を見通した教科担任制の在り方について】

- 論点取りまとめ（素案）に、教科担任制の本格導入の時期と具体的な教科名への言及がないが、明示する必要があるのではないかと。特に、新学習指導要領の実施に当たって、指導体制の観点から大きなポイントになるのが小学校高学年における外国語科であり、教科担任制の在り方を検討する上でそこに向き合う必要がある。

【教育課程の在り方について】

- 子供たちの教科書等を読み取る力が足りていないのではないかとということに関心が集まっている中で、全ての子供たちが教科書等の記述を適切に読み取る力を身に付けることができるような環境を作っていくことも必要。
- STEAM の A の範囲を広く捉えるに当たっては、倫理もその中に含めてほしい。
- 探究学習によって身に付けられる資質・能力は、ペーパーテストで測ることが難しいものであり、その評価に対する意識や考え方の改革が必要である。
- 探究的な学習は、総合的な探究の時間や理数探究の時間だけでなく、各教科においても、活用や探究を意識した単元づくりが必要であるため、その趣旨が明確になるように記載を工夫すべきではないか。

*上記内容は、委員の了解を取っておらず、事務局がまとめたものである。